

令和2年度第3回 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議 地球温暖化対策部会
議事録

- 開催日時: 令和2年11月26日(木) 10:00~12:00
- 開催場所: 西宮市役所 本庁舎2階 252会議室
- 出席委員: 清水委員、津高委員、田中委員、西明委員、北詰委員、曾我委員
加美田オブザーバー、川崎オブザーバー
- 事務局: 宮島環境局長、岩田環境総括室長
(環境学習都市推進課) 小田課長、八木係長、吉田係長、伊藤主事

1. 省エネ行動モニター事業分析結果(最終報告)について

▶分析結果要旨(分析を担当した委員より説明)

- ・一般的な省エネ行動の実施と電気使用量をアンケート形式で実施
- ・各省エネ行動の実施率と電気使用量の傾向を算出
- ・それぞれの省エネ行動を分類(①実施率が低く削減率も低い②実施率が低く削減率が高い③実施率が高く削減率は低い④実施率が高く削減率も高い) →①②については、現状実施率が低く、家庭における省エネ行動による温室効果ガスの削減ポテンシャルとして認められると考える
- ・個々の取り組みによる削減率は0~6%が見込まれ、また市内の80%の市民が複数の省エネ行動を実施することで10%程度の削減が見込まれる。

▶発言要旨

- ・削減率は市全体の削減率ということか。(委員)
→家庭部門だけの削減率。(委員)
- ・削減率は何と何を比較した場合の削減率か(委員)
→現状で各省エネ行動を実施している家庭と実施していない家庭を比較した場合の削減率(委員)
- ・今回、最終報告ということによいか。削減見込みは10%ということか。(会長)
→個々の削減率を全て単純に足し合わせると過大評価になる。また、100%の実施率は目標として現実的ではない。その為、実施率を80%という仮定でおおよそ10%とした。(委員)
- ・目標に向かっていくためには一人一人の意識改革も必要となる。フィードバックはどのようにするか。(会長)
→数値を入力すれば市民のうち○番目なのかが確認できる Excel シートは用意できる。(委員)
→今回の分析結果の広報については内部でも検討していく。また、計画冊子の中にも今

回の結果を掲載することを考えている。

2. 国の考え方と省エネ行動モニターによる結果を盛り込んだ目標設定について

▶ 説明要旨（事務局より）

- ・これまでの経緯から、市民にとって自分達の努力が見えるような目標の設定が重要だと考えている。
- ・以前事務局より提示した目標数値については時点修正を加えた。
- ・目標の設定にあたっては国の示す削減対策や効果を西宮市に当てはめて算出を行っている。また、先ほど報告のあった省エネ行動モニターの分析結果についても目標数値（家庭部門の削減効果）に反映したいと考えている。
- ・2028年度（目標年度）の削減率は33%（2013年度比）、現状（2017年度）からの削減率は23.8%が見込まれる。
- ・市民にとって自分達の努力が見える目標として、排出係数の低減分を除外し（家庭部門における）最終消費エネルギー量を指標という形で設定する。（2028年度に2013年度比26.4%削減）

▶ 発言要旨

- ・市民の努力によって減らすことができる部分を指標として掲げる事は良いと感じた。個々の取り組みによる削減効果は小さいかもしれないが、努力によって削減できる数値が積もっていくことで目標の達成につながると実感しやすい。EWCと組み合わせるなどして市民への発信もしていくことが重要だと考える。（委員）
- ・省エネ行動モニターの分析結果報告の中では家庭での省エネ行動による削減見込みは10%とあった。事務局の説明では7%と仮定した目標数値となっているが、この辺の数値の扱いはどうすればよいか。（会長）
 - ➔省エネ行動モニターの分析結果については80%の市民が省エネ行動を実際に行動することを前提にした数値で少々野心的すぎるかもしれない。7%が妥当かどうかは分からないが10%を達成するために80%の市民に行動を起こさせることは余り現実的ではないのかもしれない。目標とするならば、達成が求められるうえ市としての施策も相当考える必要がある。（委員）
 - ➔コロナもあり、生活様式が変わっている。例えば、家庭でのゴミや電気使用量は増加してしまう。現実的なことも踏まえて数値設定をしなければ、市民として身近に感じられないと思う。（委員）
- ・地域との連携も利用して活動を市民に浸透させていくことが重要だと考える。特に環境に直接関係の無い団体や市民も巻き込むように検討してほしい。（委員）
- ・今年はコロナで在宅時間が増加し、何もしなければ電気代が増えている。今回の省エネ行動モニターの結果についても広報しておうちでできることを伝えることは今後重要では。

EWC で子供達にも楽しみながら取り組めるものもあれば良いと思う。(委員)

▶家庭でできる環境学習は事務局としても今後の課題と捉えている。また、計画策定後の冊子についてもイラスト等を利用して市民にとって分かりやすいものにしたと考えている。(事務局)

・我々企業も個別に環境目標を立てて取り組んでいるところ。SDGs を掲げていても、社員には実際に何をやればよいか伝わりにくい。具体的に取り組みを例示して、これが目標の達成に繋がっているということを伝える工夫が大切だと考える。(委員)

・住民への行動変容については「見える化」が大切だと思う。例えば、アプリのような物で楽しめることができれば浸透していくと考える。(オブザーバー)

3.国・県のカーボンゼロの表明について

▶説明要旨 (事務局より)

- ・2050年に温室効果ガスの排出量実質ゼロを国・県が表明している。
- ・全国の自治体でも表明が広がっている。
- ・目標として掲げるか、あるべき姿(将来像)として掲げるかについても今後検討したい。
- ・表明については市長表明という形になるため、市長自身の意向確認も必要となる。

▶発言要旨

- ・カーボンゼロについては国際的な動きに押されて、国が表明した形。具体敵な取り組みや根拠は明示が無い。市長がどう考えるかは分からないが、市として表明する時には達成すべき目標とするか、将来像として掲げるのかの姿勢ははっきりしておく必要があると考える。(委員)

4.環境施策推進会議の設置について

- ・温室効果ガスの削減に向けて、庁内における横断的な取り組みを推進すべく新たに設置された会議体。
- ・ごみ減量や庁舎のLED化推進等について議論を予定。

5.その他(事務連絡)

- ・今後の日程について